

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお・げんき・あいさつ～
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



「万が一に備える」
職員による消火訓練

開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第4号

発行日：令和7年7月22日（火）

発行者：杉山 孝史

えがお・げんき・あいさつ いっぱい夏休みに



冷たいアイスクリーム、食べて
ください（年少児）



鳥見行公園の水遊び、水が冷た
くて気持ちいい（年中児）



畑で育てた枝豆が、こんなにた
くさんとれました（年長児）

第1学期が7月18日（金）に終了しました。「本当にあつという間でした」この日の朝、園庭で挨拶を交わしたある保護者の方がしみじみと話されましたが、まさにその通りです。4月からこれまで、子どもたちは毎日夢中で遊び、友達とたくさん関わり、いろいろな経験を積み重ねてきました。その中で、遊びを作り出す面白さや友達と力を合わせる大切さなど、多くのことを学んできました。子どもたちを近くで見守ってきた私たち職員、そして保護者の方々も子どもたちの成長をひしひしと感じたのではないのでしょうか。

さて、保護者や地域の皆さまには、いろいろな場面で

幼稚園を支えていただきありがとうございました。皆さまのお陰で充実の1学期を終えることができました。いよいよ夏休みに入りましたが、子どもたちや皆さまにとって「えがおいっぱい・げんきいっぱい・あいさついっぱいのすてきな夏休み」（終業式の中で子どもたちにも話しました）になることを願っています。8月29日（金）、一層たくましくなった子どもたちに会えることを楽しみにしております。

終業式で1学期の振り返り

4月からこれまでの園生活を振り返り、さらに、安全で楽しい夏休みを迎えることができるように最終日の7月18日（金）、第1学期終業式を行いました。今回は、子どもたちの発達段階などを考慮し、前半は年長児と年中児、後半は年少児の2部制としました。



スライドで思い出を紹介する年長児

第1部では、年長児から1学期に取り組んだことの中から、楽しかったことやがんばったことなどの紹介がありました。「瀬戸屋敷に行って昔遊びをしたことが楽しかったです」「ブレーメンの音楽隊をして楽しかったです」「キュウリの太いのがとれました」など、たくさんの思い出をスライドを使いながら語っていました。さぞかし1学期が楽しかったのでしょう。発表した子の目がキラキラと輝いていました。



「アイスクリーム」を歌う年少児

第2部では、式のはじめに年少児全員で「アイスクリーム」の歌を元気いっぱい伸び伸びと歌いました。その後、第1部と同じようにスライドで1学期を振り返った後、絵本の読み聞かせ、夏休み「9つの約束」を確認し合いました。式の始めから終わりまで、年少の子どもたちはしっかり話を聞くことができました。子どもたちの成長を実感しました。

最後に園歌を歌って1学期を締めくくりました。3学年すべての子どもたちが終業式に真剣に参加していました。さすが開成幼稚園児、みんなみんなすてきさんです。41日間の長い夏休み、元気いっぴいに過ごしてください。

～夏休み「9つの約束」～

- ①早寝：夜遅くまで起きてないで早く寝る
- ②早起き：遅くまで寝ていないで早く起きる
- ③自分で：自分でできることは自分でする
- ④帽子：外出するときは帽子をかぶる
- ⑤うがい：外から帰ったらうがいをする
- ⑥手洗い：外から帰ったら手を洗う
- ⑦交通事故：道に飛び出さない
- ⑧ゆうかい：一人だけで遊ばない
- ⑨花火：大人と一緒にする

※最近、**水の事故**がよく報道されています。
水遊びにはくれぐれもご注意ください。



町庁舎に手形アート

年少の子どもたちと保護者の皆さん、そして年中の子どもたちが共同で製作した手形アート・虹の絵が、町役場 1 階町民プラザに飾られています。これは、町政施行 70 周年を記念して開成幼稚園が独自に企画し、町教育委員会の協力を得て取り組んだ活動です。



自分たちが作った絵を一目見ようと7月3日(木)、年少の子どもたちが園バスに乗って町庁舎を訪れました。町民プラザに着くと、あじさい

ちゃんが子どもたちを出迎えてくれました。思いもよらなかったあじさいちゃんの登場に子どもたちは歓喜いっぱいです。「あじさいちゃんだ〜い好き」とあじさいちゃんに抱きつく子もいました。自分たちの作品が窓ガラスいっぱいに貼られている様子を見て大満足の子もたちでした。

その後、再び園バスに乗り込み、七夕笹飾りを見るために瀬戸屋敷へ向かいました。笹に飾られた短冊には、子どもたち一人一人の願い事が書かれてあり、風にゆれ太陽の光を浴びてキラキラと輝いていました。お昼になり、今日の楽しかった出来事を思い出しながら、子どもたちはお弁当をおいしそうに食べていました。

魅力あるぐるんぱクラブ

今年度から開設時間を拡大し、利用条件を緩和した預かり保育・ぐるんぱクラブ。参加者も徐々に増え、多い日には一日20人を超える子どもたちでにぎわっています。預かり保育をもっと楽しんでもらおうと、担当者は様々な企画を用意して子どもたちの利用を待っています。

7月3日(木)と7日7日(月)の2日間、伝統行事「七夕」にちなんだプラネタリウム作りを企画しました。2日間の参加者総数はのべ36人、数名ずつのグループに分かれて作業をしました。牛乳パックの4つの側面がそれぞれ三角形にカットされ、所々に光を通すための小さな穴が開けられています。その穴をセロテープで貼り、サインペンで好きな色を塗り、三角形どうしをつなぎ合わせて完成させました。LDE ライトをその中に置けば、穴からこぼれた光が色とりどりに美しく輝きました。自分で作った自分だけの作品に笑顔がこぼれた子どもたちでした。



預かり保育は、学級や学年の枠を超えた子どもたち同士の交流を通して、豊かな学びやふれあいを深める貴重な場になっています。今後も、楽しい企画なども取り入れながら、魅力あるぐるんぱクラブを目指してまいります。

ひだまり

歌う

▼今年のおじさいまつりは

連日多くのお客さんでにぎわったようです。前号の「たいよう通信」でも紹介しましたが、年長の子もたちは開催期間中の一日、まつりのメイン会場で大勢のお客さんを前に自慢の歌声を披露しました。緊張しながらも見事に歌い切った子どもたちに会場から温かな拍手が送られました。先日、れんげ組の2人の子が作った「あじさいだいきさ」の曲に合わせて踊りを披露しました。♪あじさいあじさいだいきさ あじさいあじさいかわいいな あじさいあじさいすてきな あじさいあじさいハッピー♪明るい曲に合わせてテンポよく身体を動かす様子を見て思わず微笑んでしまいました。▼中国南部の美しい山岳地帯に暮らす少数民族・トン族には次のような歌があります。

♪歌わなければ歌がもつたいたい 働かなければ人は飢えてしまう 働き歌おう 農期を逃がせば収穫は減る 青春を逃がせば人は老いてしまう♪長い間、文字を持たなかったトン族では「食事は体を養い、歌は心を養う」という金言があり、あらゆることを歌で伝えてきました。「詩歌の大海原」と呼ばれるほど音楽を大切にしており、トン族の伝統音楽「トン族大歌」はユネスコの無形文化遺産にも登録されています。ただ、近頃ではテレビやネットの普及により、これらの歌が若い人に引き継がれなくなってきたようです。▼五月には「このほり」、梅雨の時期には「カエルの合唱」、七夕の頃には「たなばたさま」など、子どもたちは季節や行事などに合わせてたくさん歌ってきています。歌うことは、自然や文化への関心を高め、豊かな感性を育むことにつながります。また、楽しい思い出作りにも役立っています。「くちびるに歌を いつも心に太陽を」ドイツの詩人ツエーザル・フライシユレンの詩が思い浮かびます。子どもたちの歌声が、周りの人々に喜びを届け、新たなつながりを生み出すきっかけになることをこれからも願っています。

